

非常事態宣言と陽性者増加の影響で園ごと小地域での交流を余儀なくされていましたが、各地域工夫をして活動しています。今回は、小地域ごとの活動をお知らせします。

<北九州・福岡地域>

昨年度は、9月からの2園交流でしたが、感染がおさまっている7月13日に福岡県立玄海少年の家で顔合わせになる初めての交流を行いました。暑い体育館の中で少しだけリズムをし、海あそびや虫取りを楽しみました。その後感染拡大のため、交流は中断していましたが、両園の運動会が終わった10月27日福岡県太宰府にある宝満山に登りました。



毎年引率をお願いしている山の会の方の先導で、登りは比較的楽な道を選んでもらいましたが、急角度の斜面を恐る恐る登る子どもたちの姿もありました。頂上に着いたときは満足そうな子どもたち。ごはんの後は、側転大会やリレーをして盛り上がりました。下りの岩場や階段にはかなり時間がかかり足元もふらついてはいましたが、下山してきたときにはどの子もすがすがしい表情で、久しぶりに会う友だちとの会話も弾んでいました。次に会うのが楽しみです。

<久留米・大牟田地域>

久留米・大牟田地域は、ひいらぎ保育園・安武保育園・つばみ幼稚園保育園の久留米3園と大牟田の高取保育園の4園で交流を模索しています。

8・9月の交流が中止となり、例年広い体育館に1疋の布を伸ばして布裂きから行っている世界で一つの縄跳び作りのスタートを各園で始めざるを得ない状況でした。

運動会前にぜひ交流をしたいとの思いから状況が緩和したのを見計らって急遽10月初旬に交流を行いました。体育館の隅から隅までを使って縄跳びをへとへとになるまで跳ん



だり、年長の新しいリズムや跳び箱を仲間の中でより勇気を出して挑戦する気持ちを持てるようにと盛りだくさんの1日を過ごしました。

10月の27・28日には、2グループに分かれて福岡県朝倉市の大平山に登りました。3つの山を登って下りてしながらだんだんと険しく高くなっていく登山道でしたが、山頂付近に見つけた冬苺に力を得て登りきり、山頂からの景色にみんな目を輝かせていました。下山後には、甘木公園の広場でリレーや縄跳び・散策と疲れを知らない様子でした。



<熊本地域>

県を超えての交流が難しい中、部会研修はリモートで交流園の仲間とつながりつつ、保育への刺激をもらっています。子どもたちは他園の年長さんと交流する機会が持てないので異年齢の活動を充実させています。10月には3

歳以上児は金峰山（園庭から毎日見ている山）に登りました。また、散歩では熊本城の石垣登りをする年長さんの姿をあこがれの目で見られる異年齢の子どもたちにこたえるように段々と高い石垣へと挑戦しています。



<長崎地域>

長崎地区は遊びの家共同保育園、桜花保育園、認定こども園女の都幼稚園の3園で交流しています。6月10日から1泊2日で諫早青少年自然の家に集まり、園児48名と保育者12名でお泊り交流をしました。自然の家に到着すると広い体育館を走り回り、お昼はお弁当をもって沢遊びへ出発しカエルやカニを見つけました。遊び好きの男の子たちは両手に大きなカニを捕まえ、みんなの憧れになりました。カニが触れない子も仲間の励ましで、小さいのなら、もう一回、次は少し大きい、と小さな自信を得ました。リズムでは汽車やスキップ、体育館の端から端までドングリで転がったり、こいのぼりになって走り、初めての交流を楽しみました。

その後、夏が過ぎて緊急事態宣言が明け、2回の日帰り交流をしました。9月21日は全員縄跳びを持って諫早市立図書館の海のホールでリズムや跳び箱をしました。トンボや縄跳びの時に「ぶつからないように、一歩前出る」際の大人の動きをはじめ、介助する時の意識を確認しました。

10月1日の2回目の日帰り交流は、前回からすぐにみんなに会えることが嬉しく、自然と園を越えた関わりが見えました。午前中は歌やリズム、紙芝居をし、午後は近くの海が見える芝生の公園でお弁当を食べて、斜面を転げたり、縄跳びで斜面を登ったり、木陰



で跳び箱をしてのびのびと遊びました。嬉しさや楽しさを沢山もらった子どもたちは運動会に向けて気持ちも盛り上がり、運動会当日を迎えることができました。

今後の交流は、10月26日に登山交流、11月16日にリズム交流、12月2日から1泊2日のお泊り交流を計画しています。

